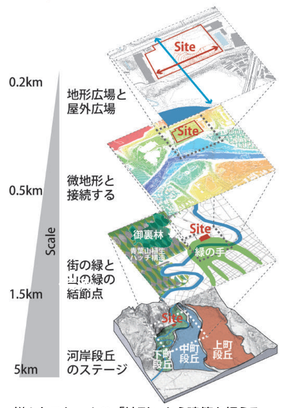
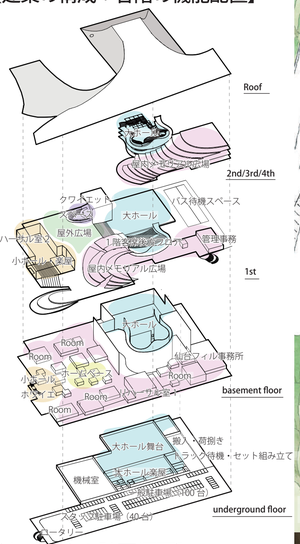
【劇場景：都市からの視点】

[S] 大きな地形広場の上で、誰もが主役となり活動すること
[M] 賑わいや小さな日常行為が広大な風景として見渡せること
[L] 見渡した先の広瀬川、川から繋がる海を思い、内省すること
これらのスケールの横断によって、ここで活動をする人はもちろん通りかかる際に風景を眺める人をも包含し、100 万人を包み込む「あわい」の場を提案



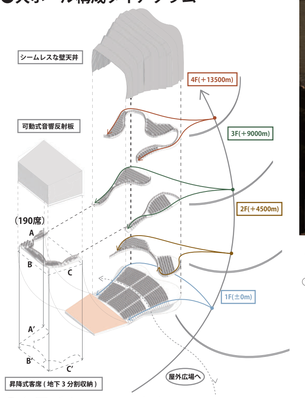
様々なスケールの「地形」から建築を捉える

【建築の構成：各階の機能配置】



【大ホールの計画概要】

●大ホール構成ダイアグラム



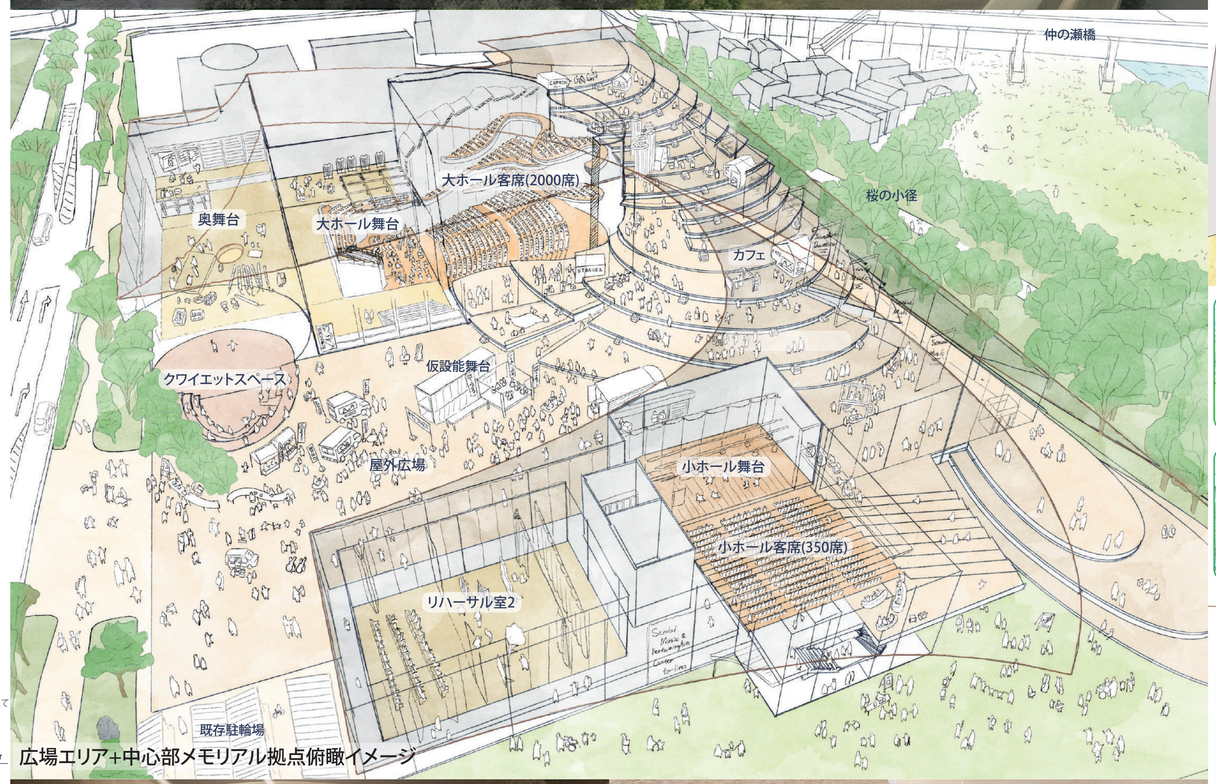
●多層バルコニーの客席

1）客席空間の一体感と多様性を両立させる。
2）舞台前面と客席の最後部までの距離を３０m 以内に抑える。
3）客席ブロックを分割し、アシンメトリーの客席配置を実現し多様な客席空間を提供する。
4）分割されたホワイエと連携することで、客席へのアプローチも多様な形式を実現する。

●ステージ側客席と音響反射板

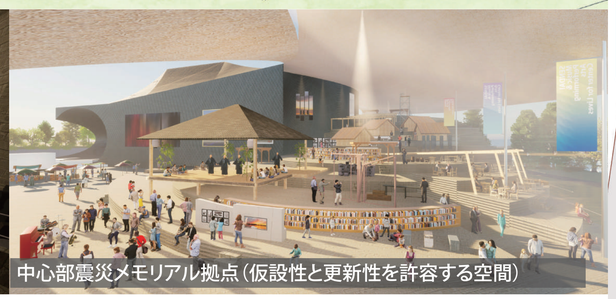
客席と反射板を分離する意味前提として、要項に求められる機能は確保していることに加えて、
1）サラウンド型にしないクラシックコンサートを行える選択肢を持つこと。実際のニーズは相当高いので、施設稼働率を維持するためにも有効
2）オーケストラの最大時の使用（例えば、120 人編成）の場合、舞台面積 (300 ㎡) 確保すること。

【景観の視点】：青葉山の稜線を壊している東北大学理学部・工学部の建築群のたち現れ方ではなく、約四百年前に伊達政宗公が築いた本丸石垣の人工物と自然の調和を端緒に自然景観と建築形態の対話を試みる。

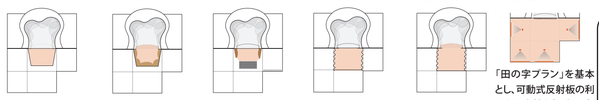


広場エリア+中心部メモリアル拠点俯瞰イメージ

大ホール内部空間（地元産出の秋保石/凝灰岩を壁面使用）

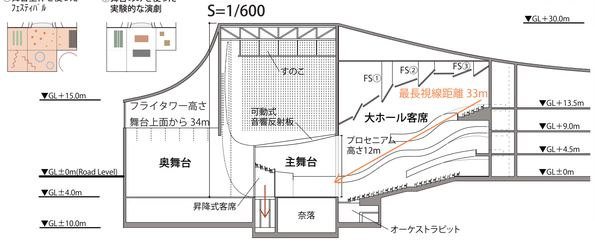

中心部震災メモリアル拠点（仮設性と更新性を許容する空間）

●大ホールの可変バリエーション



「田の字プラン」を基本とし、可動式反射板の利用と可変性を加味し、主舞台の利用を考える。

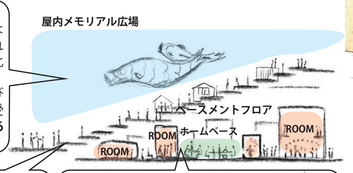
Hall 大ホール断面構成
S=1/600



【あわいの空間性：出会いと交感、共創を誘発する「あわい」の場】

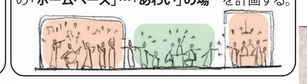
それぞれの表現活動がパブリックな場に開かれ、人々が期せずして交流、交感し、思いもよらぬ景色に出会い、新しい文化活動を共創する光景が起こる空間を「あわい」の場 と呼ぶ。

【常に変化し続けるメモリアル拠点】
メモリアル拠点は、アーカイブや固定的な展示物だけではなく、この施設で共創される多彩な活動そのものが展示となり、変化し続ける地形ひろばの風景を創っていく。
ここを訪れる市民やビジターは、来るたびに変わるアーティスティックな刺激を享受し、新たな価値観に出会うキッカケとなる「**あわい**」**の場**である。



【人々の交感の機会を広げる活動空間 (ROOM) と「あわい」の場】
ベースメント階には多様な機能を持つ活動空間「ROOM」が分散し、その間を、家具やキッチン等の仕掛けで居心地よく設えられ、クリエイティブな活気が漂う、**共用空間…「あわい」の場** を用意する。

【コーディネーターの活動拠点としてのホームベース】
使命感を持った各部門のコーディネーター同士が、日常的に交流、協働し、ビジターも寄付きやすいオープンな雰囲気のワークプレイスとしての**「ホームベース」…「あわい」の場** を計画する。

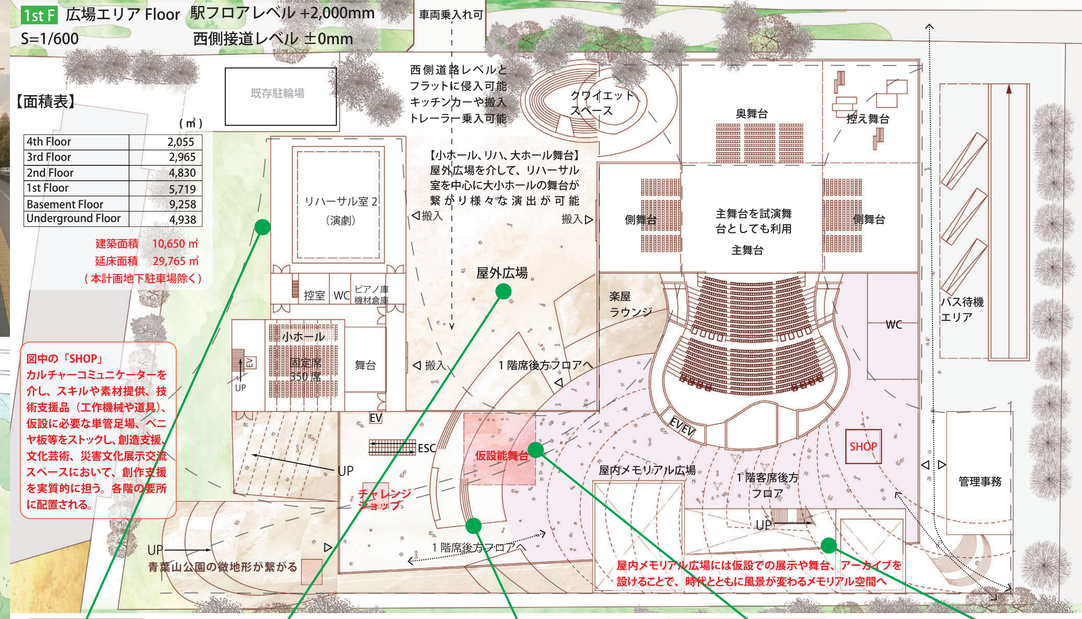


1st F 広場エリア Floor 駅フロアレベル +2,000mm / 西側接道レベル ±0mm
S=1/600

【面積表】

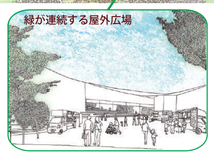
	(㎡)
4th Floor	2,055
3rd Floor	2,965
2nd Floor	4,830
1st Floor	5,719
Basement Floor	9,258
Underground Floor	4,938

建築面積　10,650 ㎡
延床面積　29,765 ㎡
（本計画地下駐車場除く）



図中の「SHOP」カルチャーコミュニケーターを介し、スキルや素材提供、技術支援品（工作機械や道具）、仮設に必要な単管足場、ベニヤ板等をストックし、創造支援、文化芸術、災害文化展示交流スペースにおいて、創作支援を実質的に担う、各階の要所に配置される。

駅前での試演会の様子


緑が連続する屋外広場

モノとコトがクロスする公園

仮設能舞台での屋外公演

多様なモノとコトがクロスする空間（ホワイエ）

川を眺め、その先の海を想う

自然と触れ合う観察の森

来館者の賑がい「あわい」

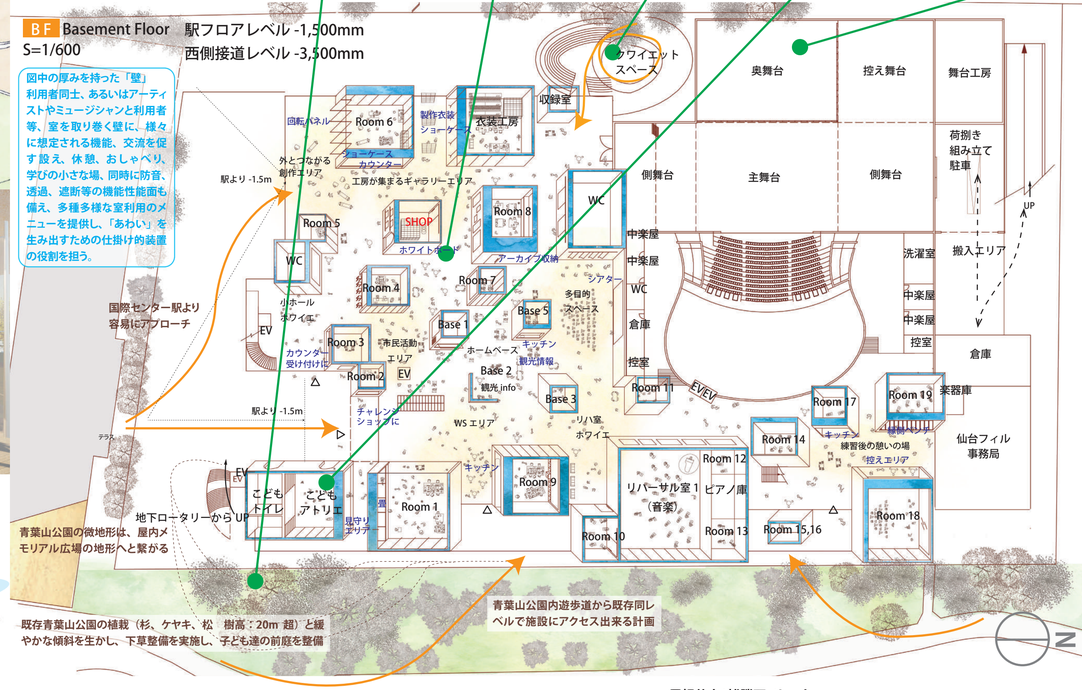
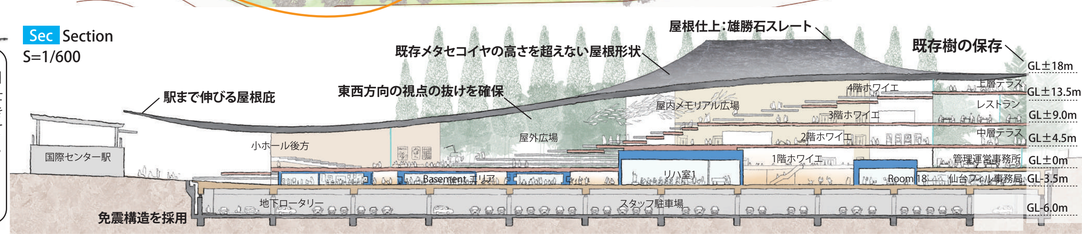
印象的なｸﾜｲｴｯﾄｽﾍﾟｰｽ

キッズエリアの様子

太陽光の入る奥舞台での公演準備

B F Basement Floor 駅フロアレベル -1,500mm / 西側接道レベル -3,500mm
S=1/600

図中の厚みを持った「壁」利用者同士、あるいはアーティストやミュージシャンと利用者等、室を取り巻く壁に、様々に想定される機能、交流を促す設え、休憩、おしゃべり、学びの小さな場、同時に防音、透過、遮断等の機能性能面も備え、多種多様な室利用のメニューを提供し、「あわい」を生み出すための仕掛け的装置の役割を担う。



Sec Section
S=1/600